ヒメクロヒラタハバチ

ホザキナナカマドにつくイモムシ（幼虫）．最大長約15mm．黄緑色．頭は小さなときは黒，大きくなるとうす茶色．６～７月に発生．10頭程度の集団で葉を糸でつづって食べる．

多発することはないが，幼虫の巣は目立つ．

１．中齢幼虫，体長10mm．1992/7/15．

置戸町，ホザキナナカマド．

２．終齢幼虫，体長15mm．１の集団の一部．

３．１～２の幼虫集団の巣．1992/7/15．

４．雌成虫，体長8mm．１～２の集団を飼育．

【学名】 *Neurotoma sibirica*

【分類】 ハチ目（Hymenoptera），ハバチ亜目（Symphyta），ヒラタハバチ科（Pamphiliidae）

【分布】 北海道；千島，樺太，東シベリア，朝鮮半島．

【特徴】 成虫は体長7～8mm，体が黒く，翅（はね）は透明．

ヒラタハバチ科の幼虫は細長い円筒形，腹脚がなく，触角がヒゲ状，尾端の左右に１本ずつ突起（尾肢）があるのが特徴．

ヒメクロヒラタハバチの幼虫は終齢で体長15mm．体は黄緑色，頭部と胸脚は若～中齢で黒色，終齢では茶色になる．

ホザキナナカマドにつくヒラタハバチはこの種以外知られていない．

【生態】

宿主： ホザキナナカマド．

年１回発生．成虫は６～７月に出現．卵は葉の先端部の裏側に単独ないしは２～９個の卵塊で産みつけられる．北海道の低山地では幼虫が７月に採れ，室内飼育下では７月下旬に老熟して土に潜り，翌春に成虫になった．幼虫は集団で葉上に粗く糸をかけて巣を作る．

【被害と防除】

公園などのホザキナナカマドにも発生する．多発した例はなく，防除は普通必要とされない．

幼虫の巣が大きいので単木的に食害が目立つことがある．気になるときは幼虫を取り除く．

【文献】

1955．竹内吉蔵．原色日本昆虫図鑑（下）．190pp．保育社，大阪．

1980．Shinohara, A．East Asian species of the genus *Neurotoma* (Hymenoptera, Pamphiliidae)．Trans. Shikoku ent. Soc., 15：87-117．（形態，生態）

1999．Shinohara，A．，and H．Hara．Host-plant records for six Pamphiliine sawflies (Hymeoptera，Pamphiliidae) in Hokkaido，Japan．Bull．Natn．Sci．Mus．，Tokyo，Ser．A，25：123-128．（生態，宿主）

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ヒメクロヒラタハバチ hirataha/himekuro/kaisetu.htm

「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，1993/10/13-2001/1/27.

1yochu1.JPG，1yochu2.JPG，1yochusu.JPG，1seichu.JPG

「写真１～４」 原秀穂，北海道立林業試験場，1992-1993.

「写真４の成虫の種の同定」 篠原昭彦博士，国立科学博物館，1993.